

12月の植物

ツルウメモドキ (ニシキギ科)

学名 : *Celastrus orbiculatus* Thunb. var. *orbiculatus*

ツルウメモドキは林縁に普通に見られる落葉のつる性木本植物である。葉はウメに似ていて茎は木性の蔓状で、名前の由来もそれに基づいている。ツルウメモドキは雌雄別株で美しい実がなる雌株に遭遇することは極めて少ない。私とその雌株を見たのは12月中旬、佐賀市富士町の山間部の集落の1軒の庭先だった。大豆大の黄色い実の中に真っ赤な果肉（仮種皮）がこぼれるように着いている様に「わあーっ！」と感嘆の声が出そうになったのを覚えている。それ以来自然にないのかいつも気に留めながら歩いているがなかなか遭遇しない。秋も深まった頃、「生け花にするので実がついた植物があれば採ってきて」と依頼があった。カラスウリかサルトリイバラの実があればと林縁を探していると黄色の実がたわわになった植物を見つけた。まだ実は割れず赤い果肉が覗いているものは少なかったが、ついに雌株のツルウメモドキを見つけた。

ツルウメモドキの葉は互生、楕円形～倒卵形、縁には浅い鋸歯があり、両面無毛。花期は5～6月、果実は10～12月に熟す。分布は北海道～沖縄、朝鮮、中国に分布し、県内では佐賀市、鹿島市、神崎市などの山間部に普通に生える。また、よく似たものにテリハツルウメモドキ（沿岸に普通）、ややオオツルウメモドキ（やや高所に稀）がある。

佐賀の方言は「あかみ」「おとうがはむきだし」「かつちょんみ」「ほしかずら」（いずれも玄海地方）。実が美しいので生け花にも用いられる。 （写真・文 井手義信）



写真は 2023.11.27（富士町）、四角枠は葉と雄花 2023.5.7（小城市）、丸枠は 2017.12.26（富士町）

参考文献：花歳時記大百科、佐賀の植物方言と民俗、樹に咲く花②、佐賀県植物目録